

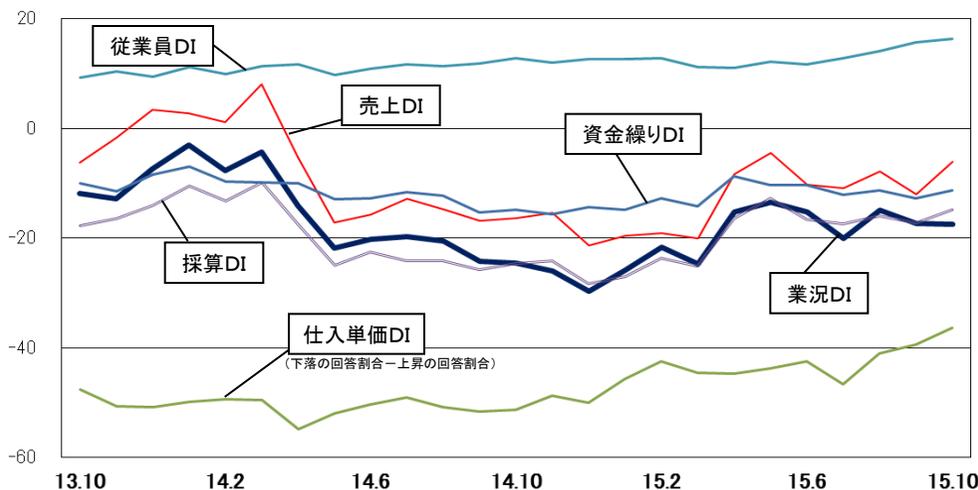


業況DIは、横ばいで推移。先行きも好材料乏しく、一進一退の動きが続く

ポイント

- ▶ 10月の全産業合計の業況DIは、▲17.5と、前月から▲0.2ポイントのほぼ横ばい。秋の行楽シーズンと中国の大型連休に伴い好調だった観光関連や住宅投資の持ち直しなどが下支えするほか、一部では、ガソリンや原材料などの価格下落の恩恵を指摘する声も伺える。他方、人手不足や人件費の上昇、価格転嫁の遅れなどが足かせとなり、業績改善のテンポがばらつく中、中国経済の減速や消費者のマインドの鈍さを受けて、中小企業の景況感は足踏み状況にある。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲16.0(今月比+1.5ポイント)と改善するものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばいの見込み。観光需要や住宅投資の拡大のほか、設備投資、公共工事の持ち直し、冬の賞与増などへの期待感はあるものの、中国経済減速の影響や消費低迷の長期化を懸念する声も聞かれる。先行きの不透明感が増す中、人手不足や人件費の上昇、価格転嫁の遅れなどの課題を抱える中小企業では、景気回復や自社の業績改善への確信が持てず、慎重な見方が続く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年10月以降)

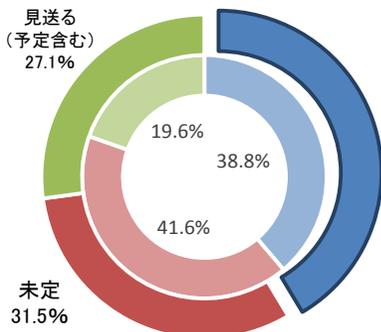


2015年度の設備投資動向

- ▶ 設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は41.4%と、2015年5月調査と比べ、2.6%増加。他方、「見送る」は27.1%と、7.5%増加
- ▶ 前年同月の調査との比較では、設備投資を「行う(予定含む)」企業は、3.7%増加し、「見送る」は、7.3%減少。前年度に比べ設備投資に前向きな姿勢が見られるものの、「未定」とする企業の割合も3.6%増加している
- ▶ 国内の新規設備投資の目的は、「能力増強」が51.6%、「省力化・合理化」が34.7%となり、それぞれ5月調査に比べ、5%超増加した

◆2015年度の設備投資動向について

※円グラフの外側が今回調査、内側が前回(2015年5月)調査

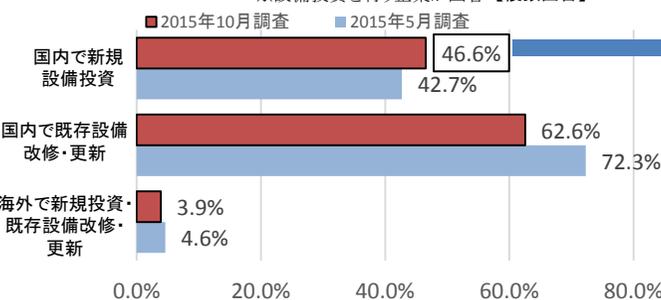


設備投資を行う(予定含む)  
41.4%

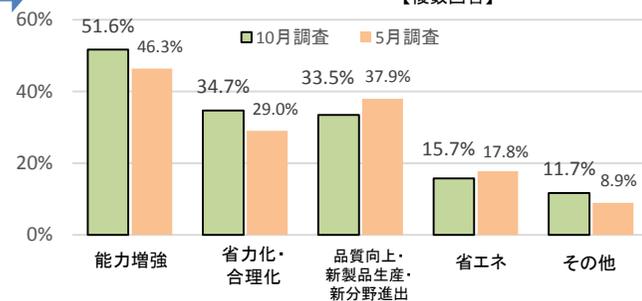
【参考】  
2014年度の設備投資動向  
・実施した・・・37.7%  
・未定・・・27.9%  
・見送る・・・34.4%  
(2014年10月調査)

<設備投資の内容>

※設備投資を行う企業が回答【複数回答】



<国内の新規設備投資の目的>【複数回答】



【中小企業の声】

- ▶ 取引先の業況が安定せず、長期の受注見通しが立たないため、設備投資には慎重にならざるを得ない (東京 繊維品卸売業)
- ▶ 北米向けを中心に受注が伸びているため、新規設備の導入や既存設備の改修により生産能力を増強。今後も受注増加を見込むため、継続的な設備投資を予定 (静岡 自動車部品製造業)
- ▶ 店舗が老朽化しているため改装を検討しているが、売上拡大につながるか確信がもてないため、踏み切れない (海南 化粧品小売業)
- ▶ 民間の新規設備投資案件の引き合いが増加しているため、営業体制を強化し、取り込みを図っている (東広島 総合建設業)